

個人向け商品ブランド『GK シリーズ』を発売!

～安心のゴールキーパーでありたい～



イメージキャラクター：
堀北 真希さん



『GK クルマの保険』
パンフレット



『GK 生命の保険』
パンフレット

従来は自動車保険、火災保険、生命保険と商品ごとにブランド展開を行ってききましたが、統一感を持たせた個人向け商品の共通ブランドとして「GK」を創設しました。

「GK」はお客様が商品を選ぶときのイメージのしやすさや親しみやすさを重視した業界初の損害保険、生命保険共通の個人向け商品ブランドであり、第1弾として2008年5月に「GK クルマの保険」を発売し、第2弾として10月に「GK 生命の保険」を発売しました。

自動車保険の商品開発にあたっては、お客様より寄せられたご要望や幅広いアンケートに基づき、商品全般の見直しを行いました。商品のわかりやすさ向上のため、補償に関する特約を70から44に減らすなど、補償の再構築や整理・統合を行うと同時に、安全運転へのメリットを拡大するなど、魅力も大幅に拡充しました。また、お客様向け説明ツールもわかりやすさ・読みやすさを追求し、「一人で読んで、一人でわかる」をコンセプトに用語の見直しやガイド機能の追加などを行いました。今後もお客様にご満足いただけるよう、引き続き商品の改善、サービス等の向上に努めてまいります。

『2008北京オリンピックのご報告』 ～ご声援ありがとうございました～

2008年北京オリンピックに当社グループ所属の4選手が出場しました。女子柔道70kg級の上野雅恵選手は、圧倒的な強さで金メダルを獲得、女子柔道52kg級の中村美里選手は、平成生まれ初のメダリストとなる銅メダルを獲得しました。

女子陸上10,000mの渋井陽子選手は、第2集団を牽引しながら力走し17位でゴールしました。また女子マラソンの土佐礼子選手は、レース途中で両足の痛みが悪化し25km過ぎでやむなく途中棄権となりました。



上野 雅恵選手



中村 美里選手



渋井 陽子選手



土佐 礼子選手

冊子のイメージを変えました。

皆さまにより親しみを感じ、さらに理解を深めていただけることを願い変えました。

表紙について

ビジュアルにペーパークラフト作家のアート起用し、皆さまのステイタスや感性を大切にしたい私たちの思いを込めています。

業績報告を見直し

業績報告は、皆さまがもっとも知りたい内容のひとつであると考えます。この業績報告について、わかりやすさ・読みやすさに配慮して、掲載方法を変更しました。また、財務諸表などの詳しい情報については、下記ホームページをご覧ください。

▶当グループ「株主・投資家の皆さま」

<http://www.msig.com/ir/index.html>

今後も皆さまのお気持ちに添えるよう努めてまいります。

MSIG Report

第1期
中間ご報告
2008.4.1～2008.9.30



三井住友海上グループホールディングス株式会社

～15000冊の冊子も大切に～



三井住友海上グループホールディングス株式会社

MSIG

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 Tel:03-3297-6486 <http://www.msig.com>

地球環境のため再生紙を使用しています。

株主の皆さまへ

「一人ひとり一つひとつを大切に。」

私たち三井住友海上グループは、一人一つひとつの仕事を心を込めて丁寧に

ひとりのお客さまとの接点を大切にし、行い、企業品質の向上に努めます。



取締役会長
秦 喜秋



取締役社長
江頭 敏明

Q. 当中間期の業績について教えてください。

A. 連結中間純利益は123億円と、前年同期^(注)を181億円下回りました。三井住友海上(単体)では、主力の自動車保険における事故発生件数の減少等により保険引受けに関わる損益が改善し、中間純利益は508億円と前年同期を227億円上回りましたが、欧州保険子会社で、欧米の金融機関破綻に起因する大口の保険事故が発生したことなどにより、連結決算では減益を余儀なくされました。

(注)当社は2008年4月1日設立のため、「前年同期」とは、当社の子会社である三井住友海上火災保険株式会社の前年同期の連結業績を指します。

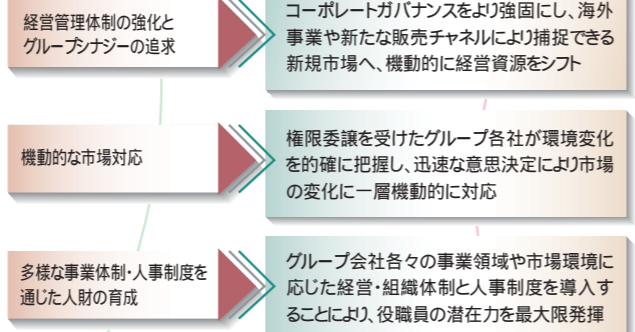
Q. 持株会社体制へ移行して半年が経ちましたが、どのような状況ですか？

A. ご存知のとおり、当社グループは2008年4月1日に持株会社である三井住友海上グループホールディングス社を設立し、三井住友海上火災保険(三井住

友海上)三井住友海上きらめき生命保険(きらめき生命)三井住友海上メットライフ生命保険(MSIメットライフ)及び三井ダイレクト損害保険(三井ダイレクト)の4社を傘下企業とする持株会社体制に移行しました。

持株会社体制への移行は、「経営管理体制の強化とグループシナジーの追求」「機動的な市場対応」「多様な事業体制・人事制度を通じた人財の育成」を狙いとしており、この半年でその狙いを少しずつ具体化しています。

今後とも取り組みを継続し、当社グループの企業価値の拡大を図っていきます。



Q. 今後の成長戦略について教えてください。

A. 日本国内の損害保険事業は、自動車の新車販売の不振や住宅着工件数の減少といった厳しい環境下であり、GDP成長率を大きく上回る成長は難しいと考えています。そのため、当社グループは、成長の源泉を生命保険事業と海外事業に求め、同事業での活動を強化しています。

生命保険事業では、きらめき生命及びMSIメットライフの2社で事業を展開しています。きらめき生命では、終身保険、医療保険等を販売し、MSIメットライフは個人年金保険の専門会社として、順調に業績を伸ばしています。

海外事業は、世界37の国・地域で事業を展開していますが、特に注力している地域はアジアです。過去に現地保険会社の買収も行い、現在アジア地域に260を上回る拠点をもち、活動を進めています。

今後事業基盤をさらに強化し、アジア市場の成長機会を確実に捉えていきたいと考えています。

Q. 株主還元についてお聞かせください。

A. 当社では、①グループコア利益の40%相当額を目処に、配当と自社株取得により株主還元を行う、②中長期的に増配基調を維持する、との方針に基づき、株主の皆さまへの還元を進めています。今期の業績は今後も厳しい状況が予想されますが、中間配当金は1株当たり27円とすることとしました。今後とも還元に関し株主の皆さまのご期待に応えるべく取り組んでいきます。

グループコア利益の定義
グループコア利益は当社グループ独自の利益指標で、グループのフロー収益力を示しています。
【算出方法】
グループコア利益 = 連結当期純利益 - 株式キャピタル損益 - クレジットデリバティブ評価損益 - 生命保険子会社連結利益 + 三井住友海上きらめき生命標準責任準備金積増前利益 + 三井住友海上メットライフ生命米国会計基準ベースの持分利益 - その他特殊要因

当社グループは、グループの総合力を最大限発揮し、世界トップ水準の保険・金融グループを目指していきます。株主の皆さまには、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

業績ダイジェスト (2008年度中間期:連結)

(単位:億円)

保険会社の損益計算書は、一般企業のように営業損益と営業外損益の区分はなく、経常収益と経常費用をそれぞれ保険引受、資産運用、その他に区分しています。

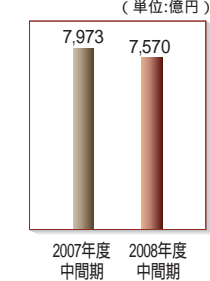
	2008年度 中間期	2007年度 中間期	増 減	増減率
経常収益	10,388	10,818	- 430	- 4.0% ↓
保険引受収益	9,469	10,051	- 582	- 5.8% ↓
正味収入保険料	7,570	7,973	- 403	- 5.1% ↓
資産運用収益	894	738	155	21.0% ↑
経常費用	10,441	10,356	84	0.8% ↑
保険引受費用	8,274	8,840	- 566	- 6.4% ↓
資産運用費用	607	82	525	640.3% ↑
営業費及び一般管理費	1,483	1,394	88	6.3% ↑
経常利益 (又は経常損失(-))	- 52	462	- 515	- 111.4% ↓
中間純利益	123	305	- 181	- 59.4% ↓
総資産	80,198	91,644	- 11,445	- 12.5% ↓
純資産	14,325	22,032	- 7,707	- 35.0% ↓

当社は2008年4月1日設立のため、2007年度中間期には、連結子会社である三井住友海上火災保険株式会社(連結)の2007年度中間期の数値を記載しております。

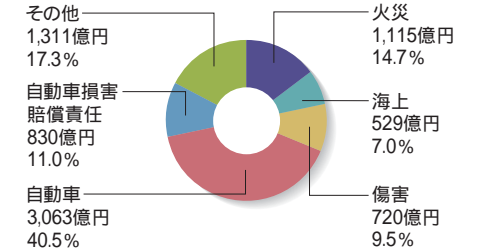
▶ 正味収入保険料

正味収入保険料は7,570億円と、前年同期比5.1%の減収となりました。これは、三井住友海上(単体)が自動車損害賠償責任保険の保険料引下げなどにより減収したことに加え、海外保険子会社の保険料収入が円高により減少したことなどによります。

正味収入保険料



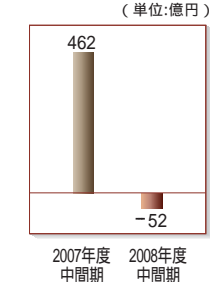
種目別構成 (2008年度中間期)



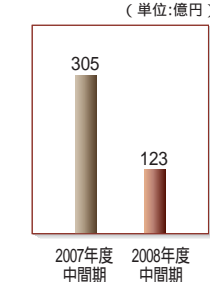
▶ 経常利益・中間純利益

当中間期は52億円の経常損失となりました。これは、グローバルな金融危機の影響により有価証券で多額の評価損を計上したこと及び欧州子会社で欧米の金融機関破綻に起因する大口の保険事故が発生したことなどによります。一方、有価証券の評価損の発生に伴って特別利益として価格変動準備金を取り崩し、中間純利益は123億円となりました。

経常利益



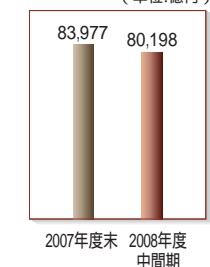
中間純利益



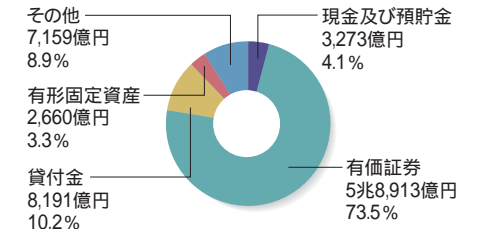
総資産

総資産は8兆198億円と、2007年度末比4.5%減少しました。これは、グローバルな金融危機の影響により、保有する株式・債券の価格が大きく下落したことによります。

総資産



総資産の構成 (2008年度中間期)



グループ会社の状況 (2008年度中間期)

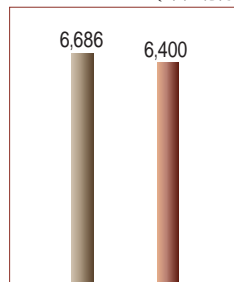
三井住友海上火災保険 (三井住友海上)

● 会社紹介

三井住友海上は、日本の損害保険業界におけるマーケット・リーダーの1社です。国内全域を網羅する707の営業拠点、約47,000店の代理店を通じ、企業向け及び個人向けの損害保険商品を幅広く提供しています。また、283の拠点・約8,000名の専門家がお客さまに的確な事故対応サービスを提供しています。

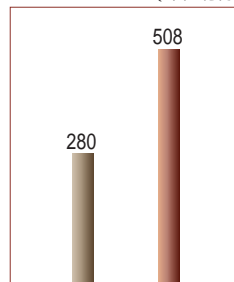
正味収入保険料

(単位:億円)



中間純利益

(単位:億円)



ソルベンシー・マージン比率 **836.5%** (2008年9月末現在)

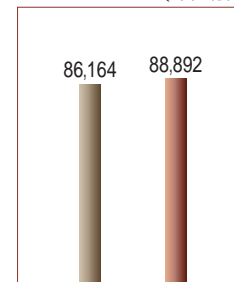
三井住友海上きらめき生命保険 (きらめき生命)

● 会社紹介

きらめき生命は、当社の100%子会社であり、三井住友海上のお客さまへのクロスセルを主たるビジネスモデルとし、終身保険や医療保険など、お客さまのライフスタイル・多様なニーズにお応えする商品を提供しています。きらめき生命の代理店は同時に三井住友海上の代理店でもあり、三井住友海上が代理店の指導・管理を行っています。

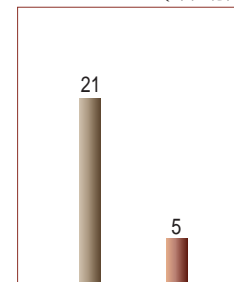
保有契約高 ()

(単位:億円)



実質中間純利益 ()

(単位:億円)



() 個人保険+個人年金保険の保有契約高

() 標準責任準備金積増前利益

ソルベンシー・マージン比率 **1,967.0%** (2008年9月末現在)

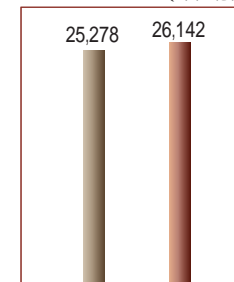
三井住友海上メットライフ生命保険 (MSIメットライフ)

● 会社紹介

MSIメットライフは、米国メットライフ社と合弁の個人年金保険の専門会社であり、日本における変額年金のリーディング・カンパニーです。金融機関を販売チャネルとし、保険の魅力と資産運用の醍醐味を併せ持った変額年金商品を主に提供しています。

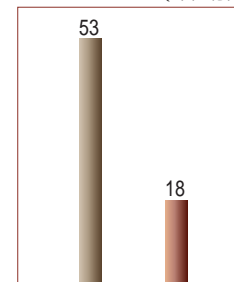
保有契約高

(単位:億円)



米国基準中間純利益 ()

(単位:億円)



() グループコア利益算出における米国基準中間純利益

ソルベンシー・マージン比率 **878.9%** (2008年9月末現在)

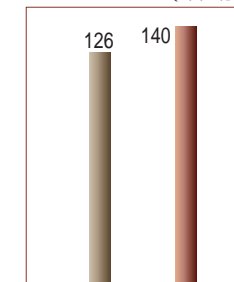
三井ダイレクト損害保険 (三井ダイレクト)

● 会社紹介

三井ダイレクトは、自動車保険主体の通販会社です。個人のインターネットユーザーを主な対象とし、シンプルでわかりやすい商品とインターネット完結型の利便性の高い契約手続きを提供する独自のビジネスモデルを展開しています。

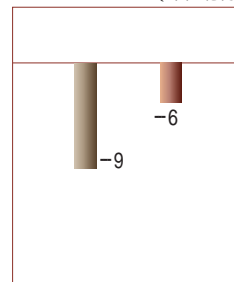
正味収入保険料

(単位:億円)



中間純利益

(単位:億円)



ソルベンシー・マージン比率 **595.4%** (2008年9月末現在)

▶ ソルベンシー・マージン比率とは：行政当局が保険会社を監督する際に活用する客観的な判断指標のひとつですが、その数値が200%以上であれば「保険金等の

支払能力の充実の状況が適当である」とされています。

特集：私たちのCSR活動

私たちは、お客さまから必要とされる企業グループであり続けるため、お客さまとの接点における品質向上に各社で取り組み、これをCSR経営の土台としています。また、社会の一員として、この社会を豊かで持続可能なものとするための活動を、グループ全体で進めています。



企画部 CSR推進室 室長
本島 なおみ

品質向上を支える従業員がハツラツと働くために

MSIGの企業品質向上を支えるのは、従業員一人ひとりの成長です。従業員が自ら学び、自ら考え行動し、プロフェッショナルとしてより高いレベルを目指して成長できる環境をしっかりと整えるとともに、重要なステークホルダーである従業員の声を取り入れ、仕事の仕組みや体制の改革と人材育成の両面に最優先で取り組んでいます。

MSIGでは従業員一人ひとりを大切にするという思いを込めて、「人材」ではなく「人材」という表記を使っています。

従業員の声で会社を変える『つくるかわる取組み』をしています。

MSIGでは、従業員一人ひとりが自ら考え、自ら行動する「つくるかわる文化」の定着と、社内コミュニケーションの向上を目指し、「つくるかわる取組み」を進めています。この活動において中心的役割を担うのが、「つくるかわる事務局」であり、「企業品質の向上を実現するためにはどうしたらよいか」について現場の視点から定期的に議論し、お客さまの利便性向上、コンプライアンスリスクの軽減、業務の効率化などさまざまな領域で経営陣に提言しています。

地球環境を守るために

事業を通じて果たすべき役割

地球温暖化による気候変動のリスクは今後ますます高まっています。保険・金融サービス事業者である私たちは、商品やサービスを通じ、被害に備えるためのソリューションを提供すること、お客さまや取引先などの環境配慮行動を促して環境問題の深刻化をくいとめることに、最優先で取り組みます。

- 【被害に備えるための商品・サービス】
火災保険・車両保険・環境汚染賠償責任保険
土壌汚染浄化費用保険・天候デリバティブ
自然災害リスクや環境関連のコンサルティング
- 【被害をくいとめるための商品・サービス】
ソーラーローン
自然災害リスクや環境関連のコンサルティング

事業活動に伴う環境負荷の削減

事業活動を行うことは、環境に負荷を与えることでもあります。保険・金融サービスの開発だけでなく、保険商品の販売や保険金のお支払などの場面においても、地球温暖化をくいとめることに役立つ取組みを進めています。さらに、日々の仕事の中でも負荷をできる限り小さくしていく努力を積み重ねています。

● 保険契約手続きのペーパーレス化

保険契約手続きにおいて、品質の向上と環境への配慮の観点から、「紙を打ち出さない・使わない」、ペーパーレス化に取り組んでいます。

● 自動車修理時のリサイクル部品活用促進

事故で損傷した自動車は、リサイクル部品で修理が可能なケースがあります。修理業者などと作業内容を打合せする際に、リサイクル部品の使用や、部品の修理をお勧めしています。

● 全損車両をリサイクル市場へ

お客さまから引取る車両は、自動車リサイクル法の登録業者に法律にのっとった処理を委託しています。修理して販売が可能な車両は中古車市場に、修理ができない車両は解体後、リサイクルパーツとして販売されます。

● ISO14001を通じた取組み

三井住友海上は、2002年12月、ISO14001の第三者認証を取得しました。2008年3月現在、グループ15社の国内全336拠点で認証を取得しています。また、三井住友海上グループホールディングスも、2008年度中の取得を予定しています。

地域社会・国際社会との共生

地球環境の保護は、いつまでもなく世界共通の緊急課題です。地域社会や国際社会の人々と手を携えながら、自らの役割を見出していくことが、グローバルに事業展開する企業の務めであると考えています。

● 熱帯林再生プロジェクト

不法伐採で荒地になっていたパリアン野生動物保護林(インドネシア・ジャワ島)を再生する生物多様性保全の取組みを、インドネシア政府と共同で行っています。



2007年11月の状況
(植林後2年経過)

● 市民環境講座の定例開催

駿河台ビル(東京都千代田区)は、都心にありながら緑が豊富に施されたビルとして近隣の方々や行政から高く評価されています。この駿河台ビルの特徴を活かし、環境問題や地域貢献をテーマにした市民環境講座を、定期的に開催しています。



第7回市民環境講座
(2008年2月)

● MSIG親子環境講座

従業員と家族の啓発活動の一環として、MSIGの共同取組みとして全国で親子環境講座を開催しています。



親子環境講座に参加した
子どもたち

交通事故を減らすために

交通事故は、経済的、社会的に個人や企業に大きな損失をもたらします。また、被害者や加害者にとっても、不幸な出来事です。保険業を事業の中核とするMSIGでは「交通事故防止活動」を社会的使命と考え、代理店・従業員が一体となって取り組んでいます。

もっと詳しく...

私たちのCSR活動について、より詳しい情報をご用意しています。

ホームページ：<http://www.msig.com/csr/>
CSRレポート：<http://www.msig.com/csr/report/>

会社概要 // 役員 // 株式の状況

会社概要 (2008年9月30日現在)

社名：三井住友海上グループ
ホールディングス株式会社
本店所在地：東京都中央区新川二丁目27番2号
設立：平成20年(2008年)4月1日
資本金：1,000億円
従業員数：20,942名(連結)

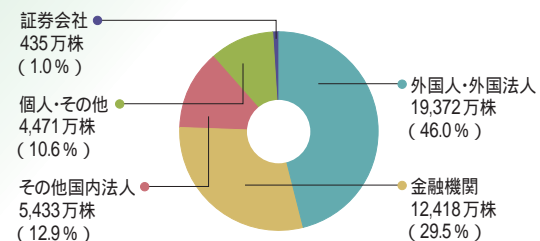
役員 (2008年9月30日現在)

取締役会長	秦	喜	秋
取締役社長	江頭	敏	明
専務取締役	中川	敏	洋
専務取締役	遠藤	勇	
取締役	浅野	広	視
取締役	池田	克	朗
取締役	市原	等	
取締役	柄澤	康	喜
取締役	藤本	進	
社外取締役	河野	栄	子
社外取締役	頃安	健	司
社外取締役	高		巖
社外取締役	関	俊	彦
常勤監査役	山下		尚
常勤監査役	飯島	至	雄
社外監査役	安田	莊	助
社外監査役	角田	大	憲

株式の状況 (2008年9月30日現在)

発行済株式の総数 421,320,739株
株主数 47,905名

所有者別分布状況



大株主状況 (上位10名)

株主名	保有株式数 (万株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,978	4.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,850	4.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	1,417	3.4
ヒーロー アンド カンパニー	1,126	2.7
ナッツ・クムコ	1,037	2.5
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイロト イッソ クライアント メロン オムニバス アカウソ	1,023	2.4
日本生命保険相互会社	996	2.4
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	823	2.0
メロン バンク エヌエー アズ エージェント フォー イッソ クライアント メロン オムニバス ユーエス ベンション	767	1.8
住友生命保険相互会社	607	1.4

株主メモ

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当 期末配当金については毎年3月31日現在の株主名簿に記載された株主に、中間配当金については毎年9月30日現在の株主名簿に記載された株主にお支払いいたします。

(注)配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと、定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

定時株主総会 毎事業年度終了後3か月以内に開催いたします。
基準日 定時株主総会において議決権を行使することができる株主は毎年3月31日現在の株主名簿に記載された株主といたします。

株主名簿管理人 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) (住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417
(その他のご照会) ☎ 0120-176-417

同取次所 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法 電子公告の方法により、下記ホームページに掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
<http://www.msig.com/company/notification/index.html>

株券電子化実施に伴うお知らせ

2009年1月5日より株券電子化が実施される予定です。この日以降、ご住所変更等のお届出およびご照会は、株主さまの口座のある証券会社経由で行っていただくこととなります。

- 株券電子化前後の単元未満株式の買取・買増請求のお取扱いについて
(買取請求)
2008年12月25日から2008年12月30日までにご請求をいただいた場合は、代金のお支払は2009年1月26日以降となります。
(買増請求)
2008年12月12日から2009年1月4日まで、受付を停止いたします。

特別口座の株主さまは下記の2をご覧ください。また、単元未満株式について証券保管振替制度をご利用の株主さまにつきましては、お取扱いが異なりますので、お取引の証券会社へお問い合わせください。

- 特別口座の株主さまについて
証券保管振替制度をご利用でない株主さまには、住友信託銀行株式会社に特別口座を開設いたします。特別口座に関するご住所変更等のお届出およびご照会につきましては、左記の電話照会先にお問い合わせください。
また、特別口座の株主さまにつきましては、実施日から2009年1月25日まで、単元未満株式の買取・買増請求、株主さまの口座への振替請求等の受付を停止いたしますのでご注意ください。